

会長就任に際して

山 本 博 之

2025年4月開催の日本分析化学会第14回定時総会および理事会を経て、2025・2026年度の会長を務めることとなりました量子科学技術研究開発機構（QST）の山本博之です。思えば2023年8月、大谷前会長のご逝去に伴い開催された臨時理事会にて会長として指名された後、しばらくの時を経て今般改めて皆さまよりご支持いただきましたことに肅然たる思いを抱きつつ心からの御礼を申し上げます。

2023年8月に大谷先生の後を急遽引き継いだ際には正直「どうなることか…」との思いでしたが、いざ仕事を始めて見ますととてもそのような思いに浸る余裕などございません。早下先生などこれまでの会長諸先生のご尽力により学会を立て直してこられた改革の流れを止めることなどあり得ず、その意志を継ぎ経費節減をはじめ、運営のスリム化と向き合う日々でした。もちろん私自身もそのような改革を是非継続して推し進めるべきものと今現在も思っています。と同時に、この立場になってみると聞こえてくる会員の皆さまからの声もあるように感じます。折しもコロナ禍により生じた様々のトンネルをようやく抜け、皆さまが意欲的に様々な活動に取り組もうとされているところでした。

様々な努力と工夫を凝らすにしても、活動が活性化されればやはり一定の資金は必要となります。そのような皆さまの活動を是非とも支援したい気持ちがありながらも、「運営のスリム化」とどう折り合いをつけていくのか？ 改革とは何？ 誰のための改革？ 大きく突きつけられた課題でした。DX（Digital Transformation）の大きな波の中、省力化すべきところはまだまだあるのかもしれませんが、しかしながら「DX」がクローズアップされるにつれ、「実体のあるもの」、「直接人と会うこと」などの意義がこれまでとは異なる形で私たちの前に現れているような気もします。学会は入るも出るも自由な団体です。現状に不満であれば人は去る。一方で、これまで築き上げた学会の「歴史と伝統」を大切にすべきとされる方々も多いことでしょう。さて、どうするか。

そのような中、少しでも解に近づこうとの思いもあり、現在学会では「未来戦略」と名付け「学会をプラスに向ける」ための施策を取り上げるとともに、一つずつ実行に移しつつあります。世の中の動向や社会のありようととも、学会のあるべき姿も常に変化してくるものだと思います。そのような意味では、これまで学会改革に携わってこられた諸先生に深い敬意を表しつつ、「改革」もまた不断の見直しを迫られる必要があるのでしょう。未来戦略では、組織論的な点だけでなく皆さんの活動を支援し encourage するような「会員の意欲や気持ち」に寄りそう取り組みも重要になるものと思っています。例えば「会議で集まる」となれば交通費もかかりますが、実際に集まることによって得られる「仲間意識、集

団への帰属意識の醸成」も見逃せない点でしょう。これらとともに年会費の扱いですら聖域ではありません。

このような状況にあつて学会の未来を描くに際しては特に以下のような点に留意し、大切にしながら関係各位と議論を進めたいと考えています。

- ・会員の皆さまの「輿論」に改めて耳を傾けつつ、会員としてのメリットを感じられる情報発信、広報を心がけるとともに、「継続しやすい会員資格」や「運営に参画するメリット」を制度面、利便性から再検討すること。
- ・学会の存在意義、価値を高めるためのプレゼンス向上を目指し、「分析」にかかわる各機関、特に日本分析機器工業会（JAIMA）をはじめとした諸団体との連携を強化すること。
- ・会員の多様性を捉えつつ、性別のみならず、産学官など各職場からの幅広い人材登用、特に産業界からの運営への参画を積極的に進めること。
- ・「計測・分析」は化学に限らず、凡そ自然科学のすべての分野で普遍的価値を持つものと認識し、より広い學術領域への拡大、「分析科学」を模索すること。
- ・運営上の諸手続や規程等について厳正さを維持しつつ簡素なものとし、学会運営の効率化に努めること。

書いてみると至極当然なことのようを感じる反面、個々の方策には必ずや異論もあるでしょう。「身の丈に合った運営をすべき」との声があることも承知しています。しかしながら、私は交流が停滞することなどによって学会全体の活力が弱まり、さらには仲間をも減らしてしまうような、負のスパイラルに落ち込むことを大いに危惧しています。一方で先に述べたスリム化もすべきことであり、要はそれらを「よいところに落とし込む」、メリハリとバランスの問題なのだろうと思っています。そういった中でその時々にあった最適と信ずる解を見いだす努力を続けたいと思います。

世の中 DX が大きな波になっている、ということは先に述べたとおりですが、一方で SNS 空間での「バズり」や「炎上」などの陰には意外に些細なことで風が変わってしまう「気分や雰囲気」の世の中でもあるのかもしれませんが、学会の伝統を重んじつつも現代的な「気分や雰囲気」の中で過たずに運営するためには私からも折に触れて学会の現状をお伝えするとともに、皆さまからのご意見が欠かせません。お一人お一人のご意見を大切にすることは言うまでもありませんが支部、研究懇談会に限らず有志の方々など、より大きな集団でご意見をいただければ反映される確率もより上がることでしょう。「加入・退出の任意である学会の特性」をよく見極めつつ、それらのご意見を基に会の発展に結びつけることができるのであれば無上の喜びです。